Bellows lovers Night

2022 年 12 月 31 日（土）16：00 開演（オープニングアクト 15：30～）
横浜赤レンガ倉庫 1 号館ホール（3 階）

筆者がチケット購入を試みたとき（12 月下旬）には前売り券は完売でした。ライブ配信で聴くこともできることからホームページ上で購入を試みてみました。しかし、カードによる支払い方法だけでした。（コンビニなどでの支払いには対応していなかった）そこで、告知欄に「当日券 15：00～」とあったので、間に合うように出かけてみました。幸いなことに座席はG列（前から 7 列目）の中程でしたので、案外良い席で聴くことができたのはラッキーでした。

15：30 分オープニングアクトが始まりました。最初に演奏した団体「横浜アコーディオン愛好会」は関東アコーディオン演奏交流会で実行委員長を務める方の所属する団体なので、演奏した「サウンドオブミュージック」は他でも聴いていたけれども、筆者は今回格別な思いで聴きました。代表のあいさつによると結成は 1967 年とのことです。「じゃばら楽器生誕 200 年記念の年に出場がかない光栄に思っている」と初参加の気持ちを語っていました。

演奏の冒頭、じゃばらの開閉で風の音を表現する場面があります。他の会場で聴いたときにはこの、空気の音はほとんど聴き取れなかったけれど、この会場ではしっかり聞こえていたので、ホールの音響は良いように思いました。

続いての演奏は「テイクファイブ」。5 拍子のリズムに途中、津軽民謡風なメロディーを載せた面白い編曲の演奏でした。演奏者は「おりこ」さん。

次の演奏者は、「サジヒロミ＋ぴんからちゃん」パペットを抱えて登場。弾き語りです。「ヨーソロ」のところで“パン・パパン”と会場も手拍子で楽しんでいました。

オープニング最後の演奏者は「フジモトＥ」さん。子どもの頃 Coba さんのアコーディオンを聴いて『何ってかっこいい楽器なんだと思った』そして、自分なりのアコーディオンを伝えていと思って演奏した、とあいさつしていました。曲名の紹介はなかったのでわかりませんでした（失礼）

～メインステージへ～

16：00 メインステージ開演です。ステージ中央奥の扉からかけ出してきた Coba さん。檜山学さんをステージに呼び、最初の 1 音から破裂音が飛びだし迫力満点の開幕でした。デュオで演奏した曲は、Coba さんのニューアルバム「サムライ アコーディオン」の中の曲と紹介。Coba さんは鍵盤側のカバーを外して演奏したので、鍵盤の動きに合わせて飛び跳ねるように動くバルブ部分を見るのも楽しい。

演奏後のあいさつで、『いわゆるじゃばら楽器生誕 180 年記念で始めて、今年（2022 年）生誕 200 周年を目標にカウントダウンしてきたこと。途中くじけそうになったことも何度もあったけれど続けてこられたのも皆様のおかげです、感無量です。』と述べておられました。また、故、渡辺芳也さんと夢を語っていたお話や赤レンガ倉庫との出会いのお話もありました。そして、この 20 年で日本のじゃばらのレベルが本当に上がったと思うとおっしゃっていました。

演奏に先立ち、「200 周年には必ず参加してください」と約束した恩人であり師匠でもあるという、トンボ楽器製作所真野泰治会長の紹介がありました。

Coba さんは埼玉県にあるトンボ楽器製作所の社員寮に 2 ヶ月ほど住んだことがあるそうです。拍手で迎えられる真野泰治さん。Coba さん・・・「先生今日弾いていただけますか。真野会長・・・「アコーディオンを膝

の上に載せてもらえれば弾けます」。そんなやりとりがあり「帰ってきたツバメ」をCobaさんの伴奏でデュオ。三拍子の軽快な指さばきに聴き入りました。

～そして 順次演奏～

✿最初の独奏者は「MayMae」さん。曲名は聞き取れませんでしたけれど初めて作った曲ですとコメントしていました。

✿次は「金八」さん。彼女たちは9月の関東アコに同じユニット名で出場していて、演奏曲も「サウンドオブミュージックメドレー」でした。足に鈴を付けたり、ウインドチャイムや笛などが入った楽しい演奏です。

✿次は「ワリタエリコ」さん。彼女も関東アコ（コンクール）によく出場される方です。演奏曲は「ディベルティメント」。今日還暦を迎えたといわれたけれど、お若いです。

✿次は「アコーディオンロコ。と円能寺正臣」さん。アコとヴァイオリンのアンサンブルです。

✿次は「池内光子」さん。客席は手拍子で参加していたけれど曲名の紹介はなかったように思います。

✿次は「Luann」フルート、ヴァイオリン、アコーディオンは千葉薫さんとセッキーの4人のユニットです。千葉さんは、イケベアコーディオン教室講師の一人でもあります。演奏曲は檜山学作曲「場末のJava」。

✿次は「蜂鳥あみ太＝4号＋田村賢太郎(四角いラフランス)」ユニット名もユニークですけど蜂鳥さん(ボーカル)の全身網タイツ風衣装にびっくりします。アコーディオンは田村賢太郎さん。蜂鳥さんの語りもまた独特です。最後に歌った曲はロシアの曲で「長い道」と紹介していました。「ラ、ラ、ラ、ラーララ」のところは聞き覚えのあるメロディーで客席も手拍子で参加していました。

✿次は「橘田美穂」さん。演奏曲は、芝居のテーマ曲として作曲した「夜の影」と紹介されました。女優渡辺えりさんの芝居に関わっていて役でアコーディオンを弾いて下さいといわれたことがアコーディオンを始めるきっかけだったとおっしゃっていました。それともう1曲、そんなアコーディオンとの出会いを曲にしたという「恋の始まり」の2曲演奏されました。

✿次の演奏は「ISOLATION ORCHESTRA」このユニットは、2022年長野県松本市で行われた演劇祭で結成されたと紹介。クラリネット（竹内理恵）チューバ（Gideon Juckes）ドラム（ふーちん）アコーディオン（松本みさこ）の4人編成です。また、2023年4月15日（土）アルバム発売記念を告知されました。そして、今日のために編曲したという「Nisht Gezorgt」を演奏。(曲名と読み方、「ニシュトゲゾルト/イディッシュ語」は後日編曲者松本みさ子さんから教えていただきました。クレズマーという東欧ユダヤの音楽を2曲演奏したとお聞きしました)

✿次は旅するアコーディオニストの田ノ岡三郎さん。「ムーンリバー」そしてじゃばら200周年に感謝を込めてお送りしますと、オリジナルのミュゼットワルツ「スノードロップ」を演奏。

～ここで15分間の休憩～

✿休憩後の最初は「matzo＆コマッツォ」さん。最初の演奏曲は「ドリーマー」二人は親子で、matzoさんが初めてBellows Lovers Nightに出場したときにドラムのコマッツォさんは0歳で見に来ていたそうです。今年は2回目の出場で9歳になったお子さんと一緒に舞台に立てて感無量です、とあいさつしていました。

　彼らは、6月に仙台市で開催された「とっておきの音楽祭」に出場されたときの様子を関東アコニュースで紹介しました。2曲目は「シング・シング・シング」客席は手拍子で参加していました。

✿次は「アコーディオンデュオ」(銀羽功美男＆平尾ありえ）さん。200周年おめでとうございますと2曲演奏。二人は2017年（第29回関東アコ）でゲスト演奏していただきました。懐かしいです。

✿次は「水谷風太」さん。1曲演奏したあ

と、『中学1年生です。クラシックアコーディオン奏者を目指して頑張っています』と自己紹介。『今日弾く曲は、今年9月に行われたイタリア、カステルフィダルド国際アコーディオンコンクールで1位をとらせていただいた曲です。いま弾いたのは「Scarlatti Sonata K.201番」です。次に弾くのは「Petri Makkonen の Tango Toccata」です。聞いてください。』と曲の紹介の後演奏されました。とても細かい音なのに大空に広がるように雄大できれいな音に驚きます。客席から“ブラボー”、“すごいね”の声が出ていました。

（曲名など紹介については、後日お母様を通して教えていただきました。その返信の中で、『カステルフィダルド国際アコーディオンコンクールで1位を戴いた時は3曲弾きまして、ベローズラバーズで弾かせて頂いたのは その中の2曲でした。』と記しておりましたので、そのことをこの記事の中で紹介させていただきます。）

✿次は、「くまるつべちこさん」ヴァイオリン（磯部舞子）、パーカッション（熊谷太輔）アコーディオン（熊坂路得子）のユニットで、オリジナル曲を演奏。

✿次は、石川県から参加したと自己紹介されたバンドネオン奏者「生水敬一郎」さん。12年前この場に立った際に初めてCobaさんにお会いし、その後神戸の会場などにも参加していて今回6回目との紹介でした。

また、師匠がバンドネオンでクラシックを極めた人だった、例えば、ヘンデルのオルガン協奏曲をバンドネオンで演奏するとかと紹介があり、ジョンケージの「ドリーム」、バッハの「G線上のアリア」、そして「幻想曲とフーガ」の3曲演奏しました。バンドネオンの音色も素敵です。

✿次は「杉山卓」さん。ブラジルの作曲家の曲と紹介された「オデオン」、2曲目はオリジナル曲「Bitter Chocolate Waltz」を演奏。イケベアコーディオン教室の講師でもあります。

✿次はアコーディオンデュオ「巡～MeguRee」。最初に「クロードのタンゴ」を演奏して、メンバー紹介。メメ（ボタン式アコ）、リー（鍵盤式アコ）2台のユニット。二人でピアノの連弾をしていた8年前に楽器をアコーディオンに換えたことで人生が変わったと紹介。重くて重くてくじけそうになったともあったけれど、いまではアコーディオンが大好きと語っていました。2曲目は、オリジナル曲でした。

✿次は「おしどり」さん。アコーディオンの演奏に合わせて針金を曲げて文字や形を作ります。筆者は初めて見ました。

おしゃべりが早口でメモが出来なかったので帰宅後「おしどり」で検索しました。「よしもとクリエイティブ・エージェンシー」に所属する音楽漫才コンビで、針金細工のパフォーマンスは（ケン）で、アコーディオンは（マコ）と載っていました。

ステージで完成した作品は客席にプレゼントされました。また、テルミンと紹介された電子楽器（横と立てに延びた2本のアンテナに左右の手をかざし、アンテナに近づけたり遠ざけたりで音階や強弱を付けられるので曲の演奏が可能）のパフォーマンスもされました。

スチールギターのような音色です。楽器に触らないのでコロナ時代にぴったりな楽器との紹介に会場から笑いも。

✿次は「チャラン・ポ・ランタン」アコーディオン（小春）、うた（もも）の姉妹ユニット。～もういくつ寝るとお正月～で登場。演奏曲は軽快な「ムスターファ」でした。

✿次は「檜山学」さん。この企画が始まった20年前は、まだヨーロッパに留学している頃だったと語っていました。

最初の曲は「パピヨンのワルツ」、2曲目は明日に希望を持って進んでいきたいという思いを持ってつくられたというオリジナル曲で「ロマン」を演奏。

✿次は、友情出演の「ポカスカジャン」ボーカル・バケツドラム（大久保ノブオ）、ボーカル・ギター（タマ伸也）のユニット。まず「ガリガリ君のうた」客席は手拍子。

楽器を使ったお笑いコンビなので活字を読まれても伝わらないと思うけれど、例え

ば大伴家持のうた（ひさかたの 雨の降る日をただ独り 山辺におればいぶせかりけり）これを「アフリカの民族音楽でアレンジします」と、槍や盾を持った踊りの真似をして意味不明な声をだし踊り、最後に“やかまちい”（やかましい＝うるさい）といった落ちで終わる。そんなお笑い芸で客席は爆笑です。

また、ビートルズの「レット・イット・ビー」のメロディーを使っていろいろな曲をつないで歌うなどで客席を楽しませていました。あるいは、ギターとカスタネットで魚市場の競りの様子をフラメンコのリズムで語り最後は会場のみなさんと一本締め（パパパン パパパン パパパン パン）を何度も繰り返して終わりました。

✿そしてCobaさんの登場！　アルバム「ザアコーディオン」の中から「アコーディオンのためのワルツ」を演奏後、『この20年間長いようでやっぱり短かった。来年からはちょっと違ったことを考えようかなと思っている』日本でアコーディオンで生計を立てていくのは大変だったと思う。20代の頃のアコーディオン業界は狭く人も少なくて他の業界と比べて悲しい思いをしていた。だからこそ、なるべく違う業界の人たちと一緒にやっていくと考えた。

1981年にイタリア留学から戻ったけれど本当に仕事がなかった。ライブハウスも限られていて、そこで演奏されていたのはジャズだったりロックだったりで、いまのような多様性はなかった。それが Bellows Lovers Night の20年間で多くの若いプレーヤーが育ったのは、応援して下さる皆様のおかげです。

またCobaさんは、沢田研二さん、木の実ナナさんの音楽を担当してきた。1995年にロンドンでおこなったライブで出会ったアイスランドの歌手から世界ツアーに熱烈に誘われたとき、当時バンドリーダーをしていた Coba さんは沢田研二さんに土下座をして離れたと語っていました。それにもかかわらず、翌年、首だと思っていた自分を再び一緒にやってくれと呼んでくれたことに信じられなかったといいます。沢田研二さんには足を向けてねられない、そのおかげでいまがあると思っている、あのときの想い出は一生語っていくとも話していました。

『思いを込めて続けると必ずそれを応援してくれる人が現れる、それは確かです』と語っていた言葉が記憶に残っています。

だめだと思っても自分を信じてもうちょっと続けてみて下さいと、また、『これで終わらない、もっともっと発展していって欲しいなと思います』と後輩たちへ期待を込めて贈る言葉もありました。

最後に、客席に向けて、それぞれのファンのアーチスト以外も少し応援して下さいと、また、2023年は「サムライ アコーディオン」の全国ツアー（3月24日/金 大阪 umeda TRAD）、（4月8日/土 東京 日本橋三井ホール）での告知であいさつを終えました。

そして最後の曲と紹介したのは、アルバム「サムライ アコーディオン」の中から「Go Go カーニバル」を一緒に楽しんでみませんかと問いかけて演奏。軽快なリズムに客席も手拍子で参加していました。誰か止めないといつまでも続くようでした。

その後は、Cobaさんから一人ずつ名前を呼ばれた演奏者が舞台に登場します。客席の拍手が続きます。そして、「吠えろベローズ」のジャヤバラ大セッションです。立奏で演奏する参加者の笑顔が素敵でした。

筆者は初めて聴きに行きました。ホールの席は500席ほどだけれどもライブ配信で観られた人たちも大勢いたことでしょう。
終了は午後8時を回っていました。4時間にわたるBellows lovers Nightも流れ星のように過ぎ去り、大晦日の夜空にまたたく星を見ながら帰途につきました。

（文責：乙津）